

2025 年 5 月 旅行取扱高状況報告

＜ 日本国内における旅行区分別取扱高 ＞

(単位：千円)

区 分	取 扱 高	前年同月取扱高	前年同月比
海外旅行	19,810,478	18,900,633	104.8%
国内旅行	4,202,242	3,489,186	120.4%
訪日旅行	1,784,505	1,152,345	154.9%
合 計	25,797,227	23,542,164	109.6%

※株式会社エイチ・アイ・エス及びグループ 5 社（株式会社オリオンツアー、株式会社クオリタ、株式会社クルーズプラネット、株式会社ジャパンホリデートラベル、株式会社エイチ・アイ・エス沖縄）の社内取引を相殺した旧会計基準の取扱高となります。※2024 年 5 月の訪日旅行取扱高 修正（2025 年 7 月 10 日）

■海外旅行

5 月 9 日より「SUPER SUMMER SALE! 2025」を開催。年々動きが早まる夏旅の需要に応えるべく、航空座席・ホテルなど、今だからこそ提供できる商品をお得な価格と、多彩なラインナップでより一層の夏旅の需要喚起に努めました。

5 月出発の取扱高において、欧州・オセアニアが引き続き好調に推移しました。特に欧州・中近東においては 2019 年同月比 112%と回復をみせており、5 月に大阪にてオープンしたヨーロッパ・中近東・アフリカ専門店にも注目が集まっています。オーストラリアにおいては、過ごしやすい季節であることや観光や食事が付いている内容充実の商品が奏功し、特にシニア層、ご夫婦等の集客増加に繋がり、前年同月比を上回りました。一方、ハワイ・ミクロネシアにおいては、国際線の減便などの影響もあり前年同月比 99%ではあったものの、昨年の同時期と比較し燃油サーチャージの引き下げや、6 月以降は円高傾向である点から、同日比で前年を超える傾向がみられます。

以上の結果、海外旅行取扱高は、前年同月比 105%の 198 億 1,047 万円となりました。

＜ 海外旅行取扱高 方面別・商品別・チャネル別データ ＞

方面別	前年同月比
アジア	102.9%
オセアニア・南太平洋	114.1%
ハワイ・ミクロネシア	98.9%
欧州・中近東・アフリカ	115.3%
北米・中南米	102.2%

商品別	前年同月比
手配旅行	103.6%
企画旅行	109.7%

チャネル別	前年同月比
店舗	108.9%
オンライン	109.1%

■国内旅行

「SUPER SUMMER SALE! 2025」では、特にダイナミックパッケージ（航空券＋ホテル以下、DP）を強化し、早期割引施策や人気方面である沖縄を中心に目玉商品を展開し、夏旅の需要の喚起に努めました。取扱高を牽引する沖縄においては、7 月 25 日に沖縄本島北部の「やんばるの森」にオープンするテーマパークのチケットを組み込んだツアーの展開を図りました。加えて、旅行のキャンセル料が保険金額を上限とする全額が戻ってくる「キャンセル保険」の発売において、飛行機を利用したパッケージツアーのみならず、バスツアー・宿泊・航空券などの国内旅行の商品においても対象商品の拡充を図り、旅マエの不安解消に繋がりました。

5 月出発の取扱高においては、DP が前年同月比 150%と好調に推移しました。また方面別では、引き続き沖縄が取扱高を牽引しており、ゴールデンウィーク出発の需要が 5 月に集中したことや、各地から国内線の増便もあり、前年同月比 134%となりました。

以上の結果、国内旅行取扱高は、前年同月比 120%42 億 224 万円となりました。

■訪日旅行

先月に続き HIS 訪日旅行事業部における単月取扱高を、過去最高を更新する好調な結果となりました。団体旅行では、北米や欧州からの受客が引き続き好調に推移し、特にアメリカの学生に向けた日本の文化や歴史を学び、自然体験、企業訪問などを通じて日本への理解を深めるツアーが取扱高を押し上げました。個人旅行においては、青森のねぶた祭りや長岡花火など、日本の四季と風物詩の掛け合わせに加え、付加価値の高い商品が、アメリカ、アジア圏を中心に人気を博しています。また、グループ会社のジャパンホリデートラベルでは、「雪の大谷 アルペンツアー」の予約が前年同月比 160%と好調に推移しました。

以上の結果、訪日旅行取扱高は、前年同月比 155%の 17 億 8,450 万円となりました。

2025 年 5 月の日本国内における旅行取扱高合計は、前年同月比 110%の 257 億 9,722 万円となりました。

2025 年 5 月 海外における旅行取扱高状況報告

< 海外における旅行区分別取扱高 >

(単位：千円)

区 分	取 扱 高	前年同月取扱高	前年同月比
インバウンド	14,264,754	13,034,254	109.4%
アウトバウンド	10,453,480	12,319,516	84.9%
合 計	24,718,234	25,353,769	97.5%

※エイチ・アイ・エス海外現地法人 32 社と海外子会社 4 ブランド（MIKI グループ、MERIT TRAVEL、JONVIEW CANADA、RED LABEL VACATIONS）の社内取引相殺前の取扱高となります。なお、為替換算レートにつきましては、期中平均レートにて算出しています。

※HIS 欧州現地法人の一部と MIKI グループとの統合により調整後の取扱高を反映しています。

※海外におけるインバウンドとは、各海外拠点における旅行受客業務の取扱高。海外におけるアウトバウンドとは、各海外拠点における旅行送客業務の取扱高。

■海外インバウンド

ベトナムでは、ゴールデンウィーク期間に直行便のない 3 都市（仙台、名古屋、福岡）からのチャーター便運航による受客や、HIS オリジナルの乗り放題ライドシェアサービス「VuiVui Ride」など現地でのアクティビティの取扱高が好調だったことにより、前年同月比 113%となりました。フランスでは、5 月の気候の良さと、ハイシーズン前が低価格帯であることから、受客が増加したとともに、日本人マーケットにおける報奨・研修旅行やモン・サン・ミッシェル行きバスツアーが好調だったため、前年同月比 132%となりました。カナダでは、引き続きバンクーバーやトロント、バンフ行きの商品が取扱高の上位を占め、前年同月比 100%と堅調な回復をみせました。

以上の結果、海外インバウンド取扱高は、前年同月比 109%の 142 億 6,475 万円となりました。

■海外アウトバウンド

シンガポールでは、スクールホリデーシーズンに合わせた日本行きの北海道周遊旅行が人気を博し、前年同月比 116%となりました。ハワイにおいては、ゴールデンウィーク明けの出発を狙った日本行きのパッケージツアーが取扱高を牽引し、前年同月比 105%と堅調に推移しました。またドイツでは、今年から BtoB 向けの日本行きツアーの取扱いを開始し、東京・箱根・京都を巡るゴールデンルートのツアー商品が取扱高を大きく押し上げ、前年同月比 280%と高い伸びをみせました。

アウトバウンドの取扱高を大きく牽引するカナダでは、政治情勢の変化を受けアメリカへの渡航が減少している反面、カリブ海やメキシコ行き商品の他、クルーズ商品が堅調に推移したことで、先月より 8 ポイント良化し、前年同月比 82%と回復傾向となりました。

以上の結果、海外アウトバウンド取扱高は、前年同月比 85%の 104 億 5,348 万円となりました。

2025 年 5 月の海外の旅行事業取扱高合計は、前年同月比 98%の 247 億 1,823 万円となりました。

本件に関するお問い合わせ先

株式会社エイチ・アイ・エス I R 室：050-1746-4188
 広報室：050-1746-4177